

## 「平成 17 年度ボランティアコーディネーターコース」開催結果

阪神・淡路大震災以降、多発する災害への対応を通じて、各地で民間団体による災害対応のノウハウが蓄積されています。本コースでは、災害救援や復旧活動に関わってきた市民活動関係者との連携を通じて、こうした実践に役立つ知識・ノウハウを提供し、「知」を実践に活かせる人材の育成を目指しました。

### 記

#### 1 日 時

平成 17 年 11 月 28 日（月）～ 30 日（金）

#### 2 場 所

阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター  
「防災未来館」5 階プレゼンテーションルーム 等

#### 3 参加者 31 名

（内訳）

	ボラ ンテ ィア 団体	社会福 祉協議 会・行 政	教育関 係者	生 活 協 同 組 合	宗 教	合計
関東地方				1		1
中部地方	2	1		1		4
近畿地方	6	12	1	1		20
中国・四国地方	1					1
九州地方	3	1			1	5
合計	12	14	1	3	1	31

#### 4 内容

開講 3 年目となる平成 17 年度コースでは、昨年度同様、被災者（地）支援の frontline となる「災害ボランティアセンター」の設置・運営、及び、そこでのボランティアコーディネーションをメインテーマとしましたが、さらに「コミュニティにおける事前の減災対策」も重要課題として位置づけ、カリキュラムを編成しました。

また、講義形態についても、ワークショップ形式を多用し、講師と受講者、受講者同士が、意見を交換しあい、相互に情報交換できる機会を豊富に設けました。

3 日間の研修の具体的な内容は、以下の通りです。

初日にあたる11月28日(月)は、センターの展示見学を行った後、センターの資料を使い、被災直後の被災者、支援者、ボランティアの経験を体験するというワークショップを行いました。この後、神戸市内にあるボランティア活動が活発な地域(神戸市長田区)を訪問してフィールドワークを行い、阪神・淡路大震災の発災直後の混乱した状況から復旧・復興にいたる一連の課題、とりわけコミュニティの崩壊と再構築について学びました。

続く11月29日(火)は、要援護者支援の現状を概観した後、メインテーマである「災害ボランティアセンター」の設置・運営とそこでのボランティアコーディネーションについて学びました。まず、初めての経験が多かった阪神・淡路大震災から、組織体制を整え機能的に運営できるようになった現在までの経緯を概観し、さらに昨今の画一・一斉・大量といった組織化による弊害などの課題も鑑み、演習形式によるコーディネート事例研究を組み込みながら、災害時のボランティアコーディネートのあり方について考えました。また、三宅島の帰島支援事業についての討論会も行いました。

最終日の11月30日(水)は、もう一つの重点課題である「事前の減災活動」について、事例報告・集団討議を通じて、受講者自身が普段の生活の中で、被害を減らすためにどんな取り組みができるのか、を考えました。

## 5 参加者の評価

当研修は、3回目となるものですが、参加者アンケートでは「非常に得るところがあった」との意見が多く、全体としては高い評価をいただいたものと考えています。

- ・ 災害が起きる前の日頃の近所づきあい・ネットワーク作りが大切ということが分かった。
- ・ 普段交流する機会のない全国から来られている様々な方と交流ができて良かった。
- ・ 職場に帰って社協の底上げをしなければならないと思いました。